



リンドウ

がんどうさわ 岩堂沢ダム



▲行く秋の蛍泉湖（けいせんこ）



江合川水域は河川の自流量が乏しいため農業用水を確保するのに苦勞する恒常的な水不足地域でした。この課題を解消するため農林水産省が新規農業用水源として岩堂沢ダムを築造しました。昭和57年（1982年）から調査、平成6年（1994年）から工事に着手し、16年の歳月と建設費338億円をかけ平成21年（2009年）に完成しました。平成22年（2010年）4月から宮城県が管理を受託し、ダム管理を開始しています。

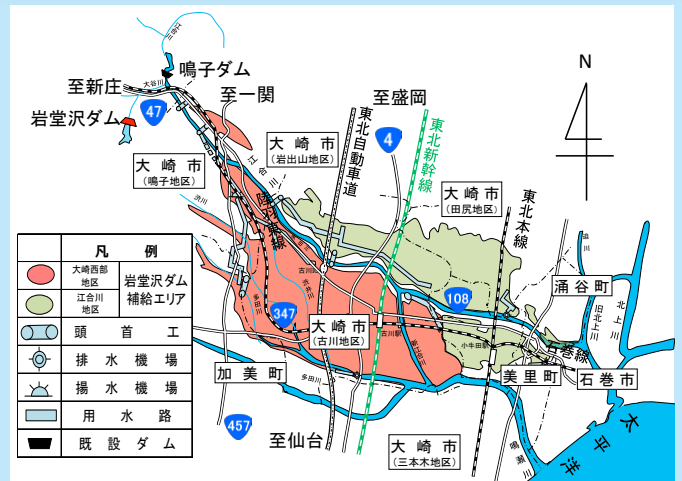
■ダムの目的

農業（かんがい）用水【A】

ダムから放流された農業用水は大崎市、加美町、涌谷町、美里町の水田10,425haでかんがい利用されています。

ダム諸元

河川名：一級河川北上川水系岩堂沢
所在地：大崎市鳴子温泉字奥羽岳
完成：平成21年（2009年）10月
形式：重力式コンクリートダム
堤高：68.0m
堤頂長：200.0m
堤体積：235千m³
総貯水容量：13,480千m³
有効貯水量：13,000千m³



▲大崎西部・江合川地区事業概要図（岩堂沢ダム補給エリア）

コラム

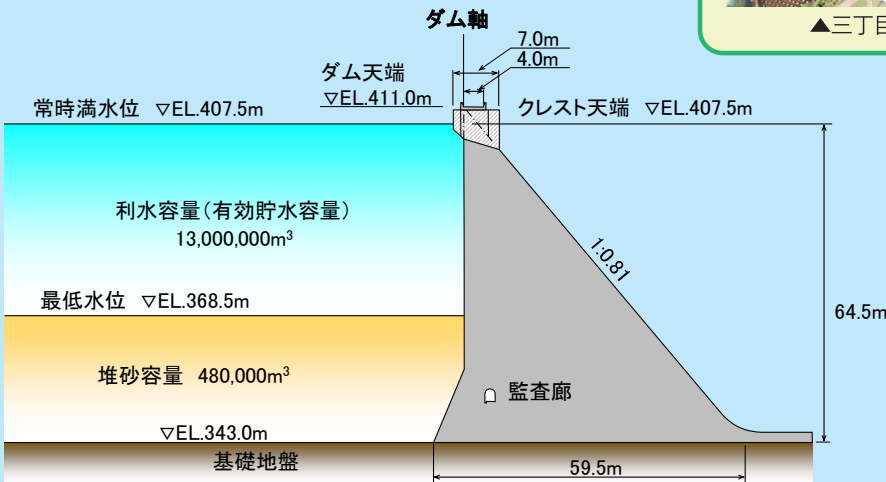
岩堂沢ダムが農業用水の供給を担っている大崎地域は、宮城県を代表する米どころ「大崎耕土」と呼ばれ、取水堰や隧道・潜穴、水路、ため池などの水利施設による農業用水の利用（かんがい）や相互扶助組織を基盤とする水管理体制は「伝統的水管理体制に基づく巧みな水管理」と高く評価され、平成29年（2017年）に「世界農業遺産」に認定されています。



▲三丁目頭首工



▲内川（用水路）



▲標準断面図



▲クレスト（堤頂）からの越流